

2023年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月14日

上場会社名 株式会社ネクスグループ 上場取引所 東
 コード番号 6634 URL <https://ncxxgroup.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 直樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 齊藤 洋介 (TEL) 03-5766-9870
 四半期報告書提出予定日 2023年7月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年11月期第2四半期の連結業績(2022年12月1日～2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第2四半期	396	△81.6	△87	—	△48	—	87	△72.9
2022年11月期第2四半期	2,151	△6.4	474	—	545	—	323	△11.1

(注) 包括利益 2023年11月期第2四半期 △90百万円(—%) 2022年11月期第2四半期 174百万円(△73.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第2四半期	3.22	—
2022年11月期第2四半期	15.89	—

四半期連結経営成績に関する注記

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年11月期第2四半期	3,397	3,211	94.5
2022年11月期	3,534	3,307	93.3

(参考) 自己資本 2023年11月期第2四半期 3,209百万円 2022年11月期 3,299百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年11月期	—	0.00			
2023年11月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年11月期の連結業績予想(2022年12月1日～2023年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,467	△46.8	146	△65.7	165	△68.8	142	△82.3	5.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年11月期 2 Q	27,301,871株	2022年11月期	27,301,871株
② 期末自己株式数	2023年11月期 2 Q	125,816株	2022年11月期	125,816株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年11月期 2 Q	27,176,055株	2022年11月期 2 Q	20,331,149株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料や記載した当期の業績予想につきましては、現時点での入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況の変化等により、実際の業績と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結累計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響が収束を見せないながらも、経済活動は徐々に動きを取り戻しつつあり、経済活動の本格的な再開と経済活性化が期待される状況ですが、ウクライナ情勢の緊迫化、エネルギー価格の高騰に伴う世界的なインフレ加速や、急激な為替の変動により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境において、2023年3月には、暗号資産「ネクスコイン（以下「NCXC」）」のGameFi領域での活用に向けた取り組みの一環として、GameFiプラットフォームの開発を開始いたしました。

GameFiは、ゲームをプレイすることでプレイヤーがトークンなどの経済的インセンティブを獲得できる「Play to Earn」（プレイ・トゥ・アーン）のブロックチェーンゲームを指します。また、GameFiの市場規模は、今後10年間にわたり平均成長率23.7%のペースで成長し、2031年には2021年の約8.3倍に値する74億2,000万ドル（約1兆17億円）へ拡大すると予想されております（出所：Report linker）。

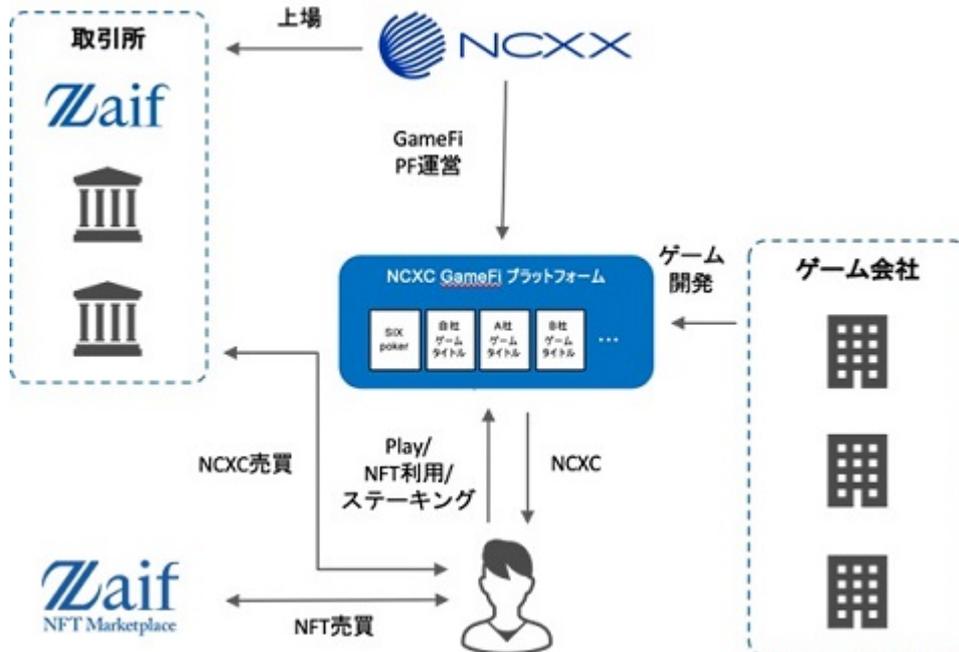
ただ、GameFiは成長著しい市場ですがいくつかの課題も存在します。

既存のGameFiで使用するトークンは、1ゲームに対して1トークンの発行が一般的で、ブームが一過性だとユーザー離脱のリスクが高く、ユーザー離脱が進むとトークンそのもののマーケット崩壊の可能性が高く、負のスパイラルに陥りやすい構造になっております。また、ユーザー側は、始める際に高額なNFTの購入が必要なケースが多く、ゲーム会社側も、通常のゲーム開発に加えブロックチェーンの技術が必要になったり、自社トークンを発行し取引所に上場させる必要があります。

当社が考えるGameFiプラットフォームは、これらの問題点を解決し、ユーザー、ゲーム会社にとってサステナブルなサービスの提供を目指します。

2023年5月には、NCXCのライトペーパー^{*1}を公開いたしました。

^{*1} NCXCライトペーパー： <https://www.ncxxgroup.co.jp/ncxc/lightpaper.html>



NCXC GameFi プラットフォームの概要

また、当社は前年度において慢性的な営業赤字からの脱却と財務基盤の強化を目的とした「事業構造改革」を実施し、継続的な企業価値の向上を目指しております。

この事業構造改革における不採算事業からの撤退により、営業赤字の大幅な改善と同時に連結売上高の70%が減少いたしました。

そのため、IoT関連事業主体の現在の事業モデルから、成長分野へ大きく事業展開を行うことでさらなる成長ポテ

ンシャルをもつ、新たなネクスグループへ生まれ変わるために、2023年4月に、2025年11月期までの3年間を対象期間とする中期経営計画を公表いたしました。

上記の結果、売上高においては、396百万円(前期比81.6%減)となりました。それに伴い、営業損失は87百万円(前期は営業利益474百万円)、経常損失は48百万円(前期は経常利益545百万円)、税金等調整前四半期純利益は91百万円(前期比72.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は87百万円(前期比72.9%減)となりました。

前期に比べ売上及び各利益額が減少している理由につきましては、前期の第1四半期におきまして、前述した「事業構造改革」の不採算事業の譲渡を行うにあたり、子会社の借入金の精算を行うにあたり保有する暗号資産の一部を売却してキャッシュ化を行い、その際の暗号資産売却益を計上しているためです。

進行年度の業績予想の進捗につきましては、売上計画が下期偏重していることもあり、概ね予定通りの進捗となっております。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントごとの業績は以下のとおりであります。

なお、前連結会計年度における「インターネット旅行事業」及び「ブランドリテールプラットフォーム事業」からの事業撤退により、当社グループの報告セグメントは第1四半期連結会計期間から「IoT関連事業」「メタバース・デジタルコンテンツ事業」「暗号資産・ブロックチェーン事業」及び「その他」の4区分となりました。

詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

(メタバース・デジタルコンテンツ事業)

持分法適用関連会社の株式会社ワイルドマンでは、VR上のアバターを操作するためのメタバースユーザー向けワイヤレス・モーション・トラッキング装置の開発案件が進捗しております。

株式会社実業之日本デジタル(以下「実日デジタル」)は、株式会社実業之日本社(以下「実業之日本社」)の刊行するコンテンツをデジタル化して配信する事業を行っており、いわゆる電子書店(電子書籍配信サイト、Web漫画サイト、漫画アプリ、雑誌読み放題サイトなど)及び電子取次、オーディオブック書店などが主な取引先となります。

実日デジタルでは、小学校のICT教育のためにパソコンやタブレット導入が推進された背景を受け、朝読書や調べ学習などに活用されている株式会社ポプラ社の「Yomokka!」に1月より作品提供を開始しており、『「もしも?」の凶鑑 ドラゴンの飼い方』(伊藤慎吾 著)が、閲覧可能な約3,000点中、同社調べの総合PV数ランキングで常にランキング上位をキープするなど、好調な閲覧状況が続いております。

同じく、小学校向けサブスクリプションサービスとして株式会社ベネッセコーポレーションの「まなびライブラリー」にも4月より作品提供を開始しました。

また、地方創生臨時交付金の活用事例に「図書館パワーアップ事業」が含まれたことから、2019年に電子版を扱う公共図書館は164館だったものが、2023年2月時点で669館と、3年で4.2倍となり、市場が急拡大しております。総合出版社である実業之日本社の強みを活かし、児童書や文芸作品はもとより、レシピ、資格、健康関係といった、電子図書館利用のメインターゲット層である20~40代女性向け作品を随時投入してまいります。

その他、当社の主力作品である『静かなるドン』(新田たつお作画)については、マンガの各コマを再編集し効果音とセリフを入れ動画化する「ボイスコミック」という手法でYouTube公式チャンネルを6月下旬にリリースし、マンガアプリを利用されていない新たな読者層の獲得を行ってまいります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は69百万円(前期比377.9%増)、営業損失は4百万円(前期は営業損失14百万円)となりました。

(IoT関連事業)

株式会社ネクスは、培ってきた自動車テレマティクスをはじめとする様々な分野に対するIoT技術をベースに「IoT×ブロックチェーン技術」、「IoT×AI技術」など、「IoT×新技術」を活用した新たなサービスの提供を目指

しております。

AIコンピューティングの分野で様々なプラットフォームを提供しているNVIDIA Corporationが提供するGPU（画像処理やディープラーニングに不可欠な並列演算処理を行う演算装置）を利用したリアルタイム画像認識技術と、マルチキャリア対応の高速モバイル通信技術を搭載した、NCXX AI BOX「AIX-01NX」は、AIプラットフォームのエッジ端末認定やAI開発ベンダーとのAIソフトウェア搭載検証、分析やシミュレーションによる効率的なモノ作りから都市レベルの課題解決まで、用途もますます拡大していくことが期待されるデジタルツインへの活用、および各通信事業者の動作確認済端末認定を進めております。1台でカメラ・センサーなどからの情報をリアルタイムにAI分析して分析結果を安定した通信性能でクラウドに連携することが可能な製品となっており、リテールテック、製造業、セキュリティ、介護見守り、測定・異常監視などの幅広い分野で活用が期待される技術であり、今後もこれらの技術をデバイス事業の新たな製品開発に活用してまいります。



NCXX AI BOX「AIX-01NX」

データ通信端末につきましては、第5世代移动通信システムである5Gに対応し、Wi-Fi、Ethernetを搭載したバッテリーレスのルーター・モデムとなる、5Gデータ端末「UNX-05G」の出荷を2023年3月から開始いたしました。5Gは、LTEと比べて超高速・大容量な通信で多数同時接続、超低遅延を実現するもので、今後、日本全国に基地局の展開が計画されており、ネットワーク上に仮想空間を構築するメタバース関連サービスの通信インフラとしての活用や、ライブメディアストリーミング、エクステンデッドリアリティ（XR）、遠隔医療、建設現場の建機遠隔制御、工場のスマートファクトリ、農業を高度化する自動農場管理、自治体や企業が建物内や敷地内でスポット的に柔軟に専用の5G環境を構築・運用できるローカル5Gへの活用など、地域課題解決や地方創生への対象領域の拡大が期待されております。2023年4月には、富士通株式会社が提供するローカル5Gスタンドアロンシステム Fujitsu Network PW300との接続性を検証する「接続検証プログラム」を通過し、接続検証済製品として認定されました。

引き続き、ローカル5Gを含む各通信事業者との相互接続性試験を並行して実施しており、認証取得状況については順次お知らせしてまいります。



5Gデータ端末「UNX-05G」

テレマティクスにつきましては、法的規制強化と車両管理業務の効率化、ドライバーの減少・高齢化など市場を

取り巻く社会環境の影響で需要が増加傾向にあるクラウド型車両管理・動態管理システムにおいて、NTT docomo/KDDI/SoftBankの国内の主なLTE周波数や、みちびき（準天頂衛星システム）など5方式のGNSS^{*2}に対応した通信機能を持ち、より多くの衛星測位システムを使うことで、ビルや樹木などで視界が狭くなる都市部や山間部においても測位の安定性が向上したOBD II型データ収集ユニット「GX700NC」が市場を確保しております。さらに、排気ガス測定・管理や今後増加するEV車の充電・電費・残量管理などの取得項目の追加案件も増加しており、SDGsへの取り組みなどにも活用の範囲が広がることが期待されます。

*2 「GNSS」とは「Global Navigation Satellite System（全球測位衛星システム）」の略で、GPS、GLONASS、Galileo、準天頂衛星（QZSS）等の衛星測位システムの総称です。

農業ICT事業（NCXX FARM）では、農作物の生産、加工、販売を行う「6次産業化事業」と、特許農法による「化学的土壌マネジメント」+ICTシステムによる「デジタル管理」のパッケージ販売を行う「フランチャイズ事業」の事業化を推進しております。

「6次産業化事業」では、引き続きスーパーフードとして人気の高いGOLDEN BERRY（食用ほおずき）の生産、販売を行っており、青果と加工品のGOLDEN BERRYアイス、GOLDEN BERRYフレッシュリキュールを販売しております。

また、青果販売については特に各種通販サイトにて好評をいただいております。2023年5月には全農東北のホームページ（<https://tohoku-project.com/2023/05/09/876/>）などでも紹介をされております。

「フランチャイズ事業」では、自社試験圃場での栽培実績をもとに、自社独自の特許農法（多段式ポット）とICTシステムの提供に加えて、お客様の要望に沿った多種多様な農法・システム・農業関連製品の提供を行う農業総合コンサルティングサービスを展開しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は243百万円(前期比4.9%減)、営業利益は9百万円(前期は営業損失19百万円)となりました。

(暗号資産・ブロックチェーン事業)

本事業では、NCXCを利用したサービスの向上、NCXCの流通促進、NCXC保有者の拡大を通じたNCXC経済圏の拡大を目指し、価値向上に向けた取り組みを行っております。

NCXC GameFiプラットフォームの開発を行い、ゲーム会社とのアライアンスにより、世の中で既に実績を上げている他社ゲームタイトルを中心に、これらを簡単にPlay to Earnのゲームに転換することのできるプラットフォームサービスの提供を目指します。

また、暗号資産市場の動向と資金効率を踏まえた暗号資産の安定的な運用を行ってまいります。当期は暗号資産の一部売却を行ったことで、営業利益を計上しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は60百万円(前期比92.2%減)、営業利益は36百万円(前期比95.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、137百万円減少し、3,397百万円となりました。

この主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産が201百万円減少、投資有価証券が347百万円減少、のれんが48百万円減少したものの、現金及び預金が274百万円増加、仕掛品が81百万円増加したことによります。

(負債)

負債の残高は、前連結会計年度末と比較して、41百万円減少し、185百万円となりました。

この主な要因は、支払手形及び買掛金が11百万円増加したものの、借入金^{*3}が15百万円減少、未払費用が28百万円減少したことによります。

*3 短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金残高の合計です。

(純資産)

純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して、95百万円減少し、3,211百万円となりました。

この主な要因は、利益剰余金が87百万円増加し、その他有価証券評価差額金が184百万円減少したことによります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の期末残高は、前連結会計年度末と比べて274百万円増加し、782百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した金額は46百万円（前年同四半期は4百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、資金の増加要因として売上債権の減少201百万円があり、減少要因として投資有価証券売却益134百万円、棚卸資産の増加80百万円、暗号資産の増加50百万円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した金額は242百万円（前年同四半期は782百万円の資金支出）となりました。

これは主に、資金の増加要因として投資有価証券の売却による収入276百万円があり、減少要因として有形固定資産の取得による支出46百万円があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した金額は15百万円（前年同四半期は334百万円の資金獲得）となりました。

これは主に、資金の減少要因として長期借入金の返済による支出8百万円があったことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年1月18日の「2022年11月期 決算短信」から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	508,962	782,980
受取手形、売掛金及び契約資産	296,469	94,914
商品及び製品	7,547	6,949
仕掛品	407,989	489,921
原材料及び貯蔵品	969	-
暗号資産	53,125	103,617
その他	45,580	60,486
流動資産合計	1,320,645	1,538,871
固定資産		
有形固定資産	122,315	162,213
無形固定資産		
ソフトウェア	8,469	7,531
のれん	905,084	856,160
その他	223	223
無形固定資産合計	913,776	863,915
投資その他の資産		
投資有価証券	1,133,585	786,520
繰延税金資産	13,503	14,089
その他	30,928	31,497
投資その他の資産合計	1,178,017	832,108
固定資産合計	2,214,110	1,858,236
資産合計	3,534,756	3,397,107
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	37,720	49,422
短期借入金	50,450	43,550
1年内返済予定の長期借入金	16,672	19,340
未払費用	41,324	12,730
未払法人税等	6,694	11,367
製品保証引当金	20,000	18,000
その他	35,036	22,031
流動負債合計	207,898	176,442
固定負債		
長期借入金	11,000	-
繰延税金負債	-	785
その他	8,436	8,269
固定負債合計	19,436	9,054
負債合計	227,334	185,497

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	4,776,703	4,776,703
利益剰余金	△1,104,622	△1,017,157
自己株式	△66,515	△66,515
株主資本合計	3,615,565	3,703,031
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△309,858	△494,632
繰延ヘッジ損益	△6,030	1,116
その他の包括利益累計額合計	△315,889	△493,516
新株予約権	7,745	2,096
純資産合計	3,307,421	3,211,610
負債純資産合計	3,534,756	3,397,107

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
売上高	2,151,071	396,210
売上原価	743,186	189,210
売上総利益	1,407,885	206,999
販売費及び一般管理費	933,763	294,079
営業利益又は営業損失(△)	474,121	△87,079
営業外収益		
受取利息	468	620
受取配当金	18,997	18,997
暗号資産売却益	-	16,862
その他	71,149	7,429
営業外収益合計	90,614	43,909
営業外費用		
支払利息	7,722	604
持分法による投資損失	-	4,410
その他	11,453	534
営業外費用合計	19,176	5,549
経常利益又は経常損失(△)	545,560	△48,720
特別利益		
固定資産売却益	451	-
投資有価証券売却益	-	134,633
関係会社株式売却益	18,281	-
その他	9,052	7,745
特別利益合計	27,785	142,378
特別損失		
投資有価証券評価損	-	2,026
関係会社株式売却損	237,330	-
特別損失合計	237,330	2,026
税金等調整前四半期純利益	336,015	91,631
法人税、住民税及び事業税	15,908	4,166
法人税等調整額	990	-
法人税等合計	16,898	4,166
四半期純利益	319,116	87,465
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,967	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	323,084	87,465

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	319,116	87,465
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△128,313	△184,774
繰延ヘッジ損益	27,204	7,146
為替換算調整勘定	△43,852	-
その他の包括利益合計	△144,962	△177,627
四半期包括利益	174,154	△90,161
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	178,122	△90,161
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,967	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	336,015	91,631
減価償却費	10,231	6,688
のれん償却額	24,461	48,923
受取利息及び受取配当金	△19,465	△19,617
支払利息	7,722	604
投資有価証券売却損益 (△は益)	-	△134,633
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	2,026
関係会社株式売却損益 (△は益)	219,048	-
売上債権の増減額 (△は増加)	37,461	201,554
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,671	11,701
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△19,114	△80,364
未収入金の増減額 (△は増加)	△189,728	△12,973
暗号資産の増減額 (△は増加)	26,551	△50,492
未払費用の増減額 (△は減少)	△15,062	△28,594
前受金の増減額 (△は減少)	△67,837	-
新株予約権戻入益	-	△7,745
その他	△288,015	△2,758
小計	56,596	25,951
利息及び配当金の受取額	18,856	20,446
利息の支払額	△9,291	△604
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△61,368	209
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,793	46,003
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,809	△46,197
無形固定資産の取得による支出	△10,386	△172
投資有価証券の取得による支出	△52,393	-
投資有価証券の売却による収入	-	276,900
有価証券の償還による収入	-	13,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△764,917	-
暗号資産の売却による収入	23,579	-
その他	24,761	△624
投資活動によるキャッシュ・フロー	△782,165	242,905
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△6,900	△6,900
長期借入金の返済による支出	△18,077	△8,332
社債の発行による収入	360,000	-
その他	△263	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	334,759	△15,232
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,770	340
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△433,842	274,017
現金及び現金同等物の期首残高	737,358	508,962
株式交換による現金及び現金同等物の増加額	46,650	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	350,166	782,980

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りの仮定につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	インター ネット 旅行事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	ブランド リテール プラット フォーム 事業	暗号資産 ・ブロック チェーン 事業	その他	計		
売上高									
顧客との契約から生じる収益	255,772	100,483	14,628	983,909	776,683	19,592	2,151,071	—	2,151,071
外部顧客への売上高	255,772	100,483	14,628	983,909	776,683	19,592	2,151,071	—	2,151,071
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,000	—	—	71	—	—	6,071	△6,071	—
計	261,772	100,483	14,628	983,981	776,683	19,592	2,157,143	△6,071	2,151,071
セグメント利益又は損失(△)	△19,285	△21,298	△14,901	△125,015	776,382	5,198	601,080	△126,958	474,121

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期 連結 財務諸表 計上額
	IoT関連 事業	メタバース ・デジタル コンテンツ 事業	暗号資産 ・ブロック チェーン 事業	その他	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	243,150	69,909	60,620	22,530	396,210	—	396,210
外部顧客への売上高	243,150	69,909	60,620	22,530	396,210	—	396,210
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,000	—	—	114	12,114	△12,114	—
計	255,150	69,909	60,620	22,644	408,324	△12,114	396,210
セグメント利益又は損失(△)	9,010	△4,511	36,113	△2,066	38,545	△125,625	△87,079

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っており、調整額は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において「インターネット旅行事業」及び「ブランドリテールプラットフォーム事業」から事業撤退しております。これにより、当社グループの報告セグメントは第1四半期連結会計期間から「IoT関連事業」「メタバース・デジタルコンテンツ事業」「暗号資産・ブロックチェーン事業」及び「その他」の4区分となりました。